

松とともに育つまち

松活用事業を軸にした観光・農・暮らしの一体型まちづくり

200年以上前から広大なクロマツ林とともにあった宮崎市。松は今も大切にされ、保全が行われている。これからは、今も昔もこの地に寄り添ってきたクロマツ林を、そのまま守るだけでなく、活用していく。松のもたらす恵を地域のために活用することで、観光、農、暮らしをつなげ、持続可能なまちづくりを目指す。

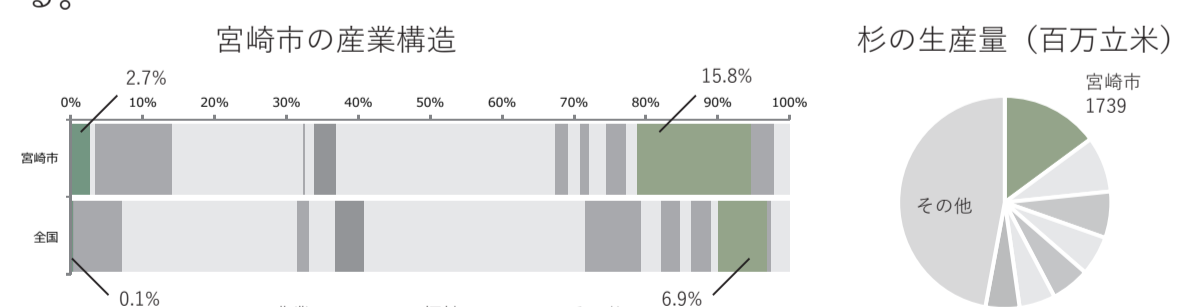
Concept 松活用事業を通して3つの課題を解決する

1. 各観光施設の分断
観光地としての共通イメージの欠如
各距離の遠さによる回遊性の低さ
2. 市街地・森林公園・海の分断
公共交通機関からの東西動線の不足
松林による通り抜けの困難性
3. 農地の衰退
森林公園と接しながら関りが薄く、
ソーラーパネルが増える農地



Site Overview

宮崎市
宮崎市は、宮崎県南部に位置する人口約40万人の中核市である。山や海に囲まれる豊かな自然環境から、農林業と福祉産業が産業の中心である。



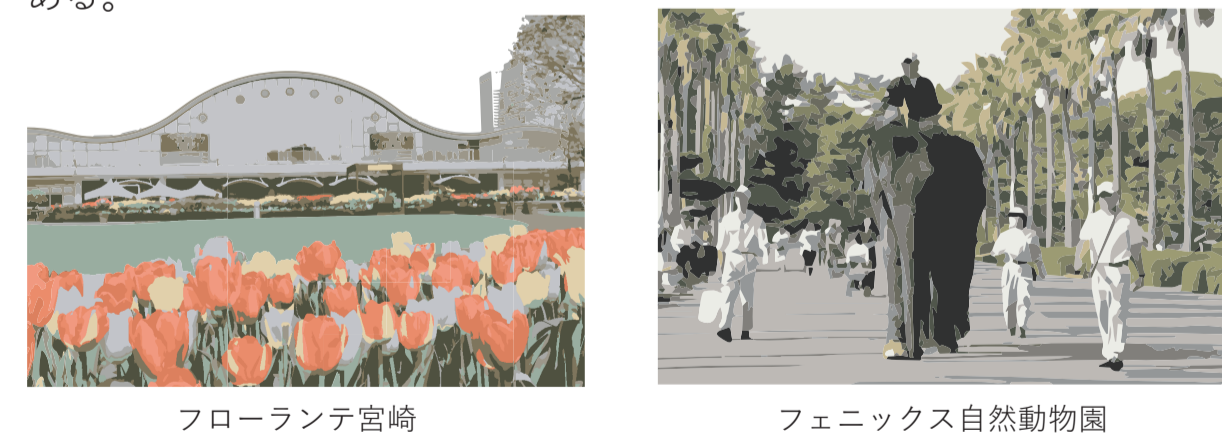
阿波岐原森林公園
阿波岐原森林公園は大部分が国・県有の松林で覆われている。松は植林当初は防潮林としての機能しか持たなかったが、現代はリゾート施設や庭園をはじめとした観光施設を含み、観光拠点のひとつとなっている。松林は市民から愛され、現在、「住吉海岸を守る会」などの組織が、以下のような行為によって松林を保全している。



Potential & Issue

1. 観光施設間の分断

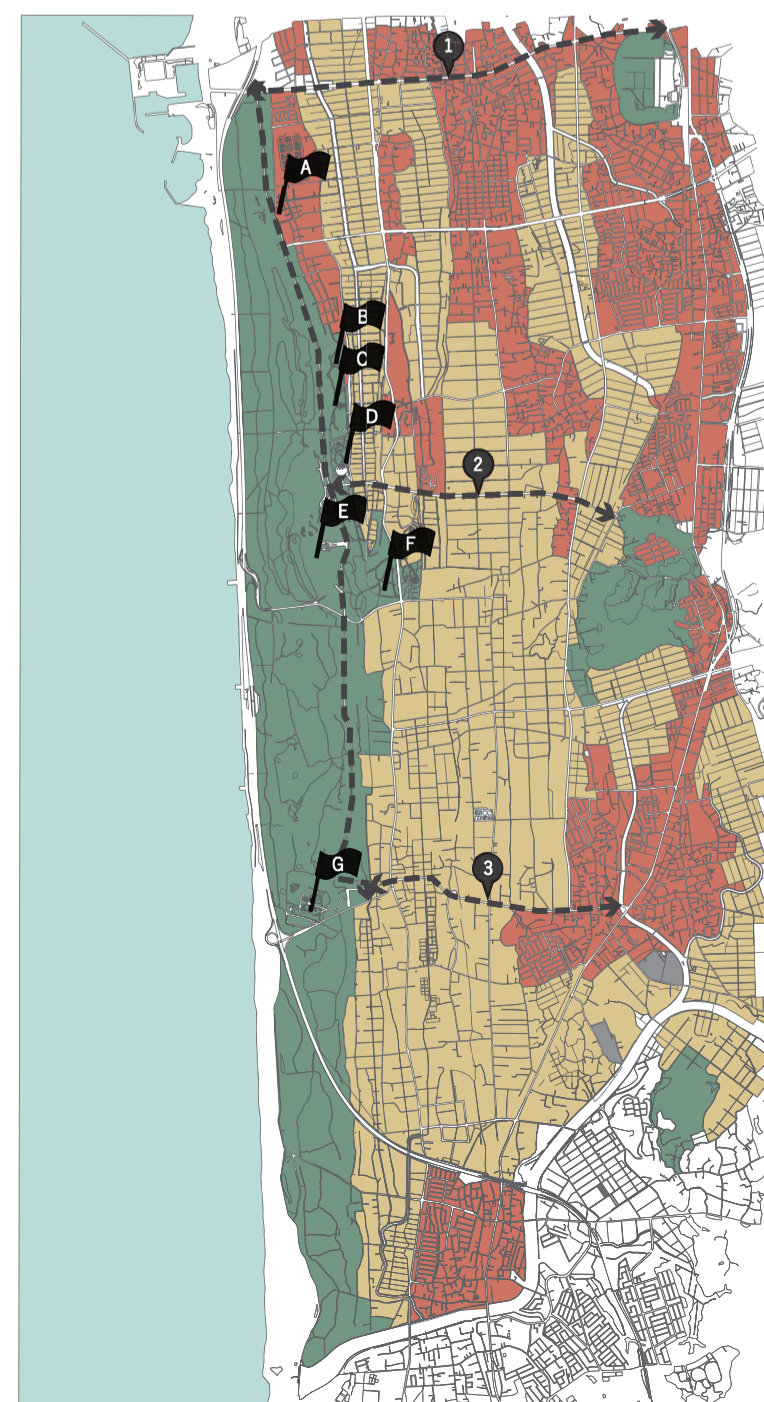
阿波岐原森林公園内には魅力的な観光資源が多数存在し、種類も多様である。



一方で、観光施設間の連携は少なく、界索性が希薄である。また、現状の観光施設はひとつのパークウェイ沿いにあるものの、各施設が松林の中で距離をとって点在しているため、気軽に複数施設を利用しにくいといった課題を抱える。シェアサイクルも存在するが、ポート数が限定的である。

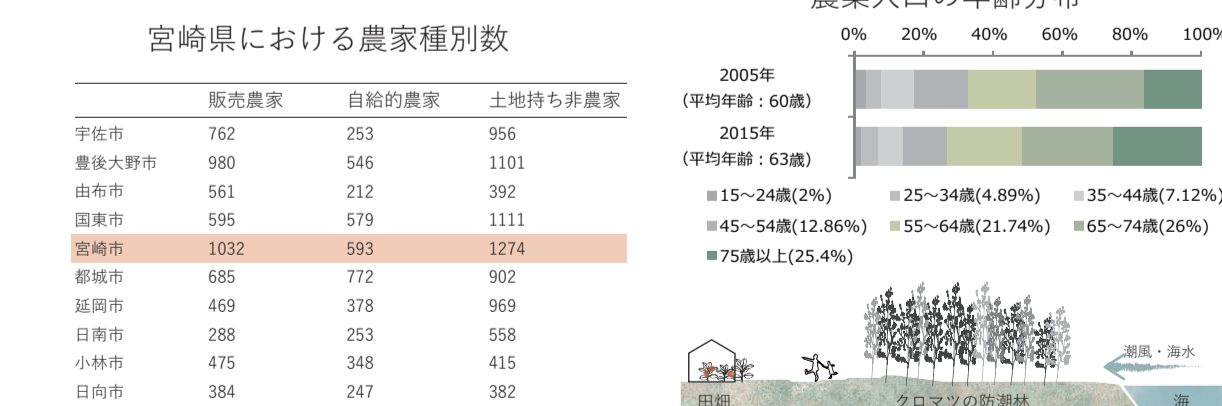
2. 市街地・森林公園・海の交通分断

市街地から海へ向けて、森林公園があるために通り抜けが難しく、市街地・阿波岐原森林公園・海とまちが3つに分断されている。一方で北権現通り・フローランテ通り・島之内通りは森林公園に直通しており、活用の可能性がある。

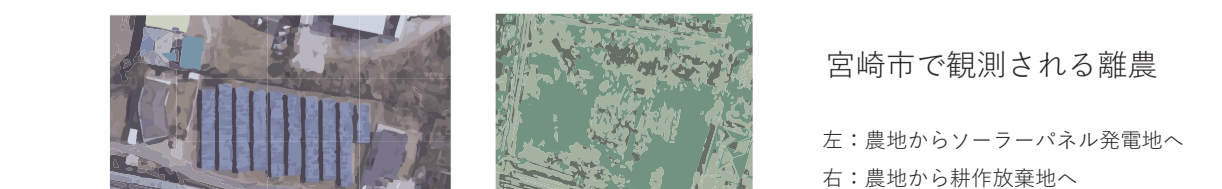


3. 農地の衰退

宮崎市は昔から農業が盛んであり、宮崎市の農家数は九州でもトップクラスである。土耕栽培できゅうりやトマトを中心に生産しており、大変美味しいことで有名である。このような宮崎市の農業の発展を支えてきたのは防潮林としての松林だった。



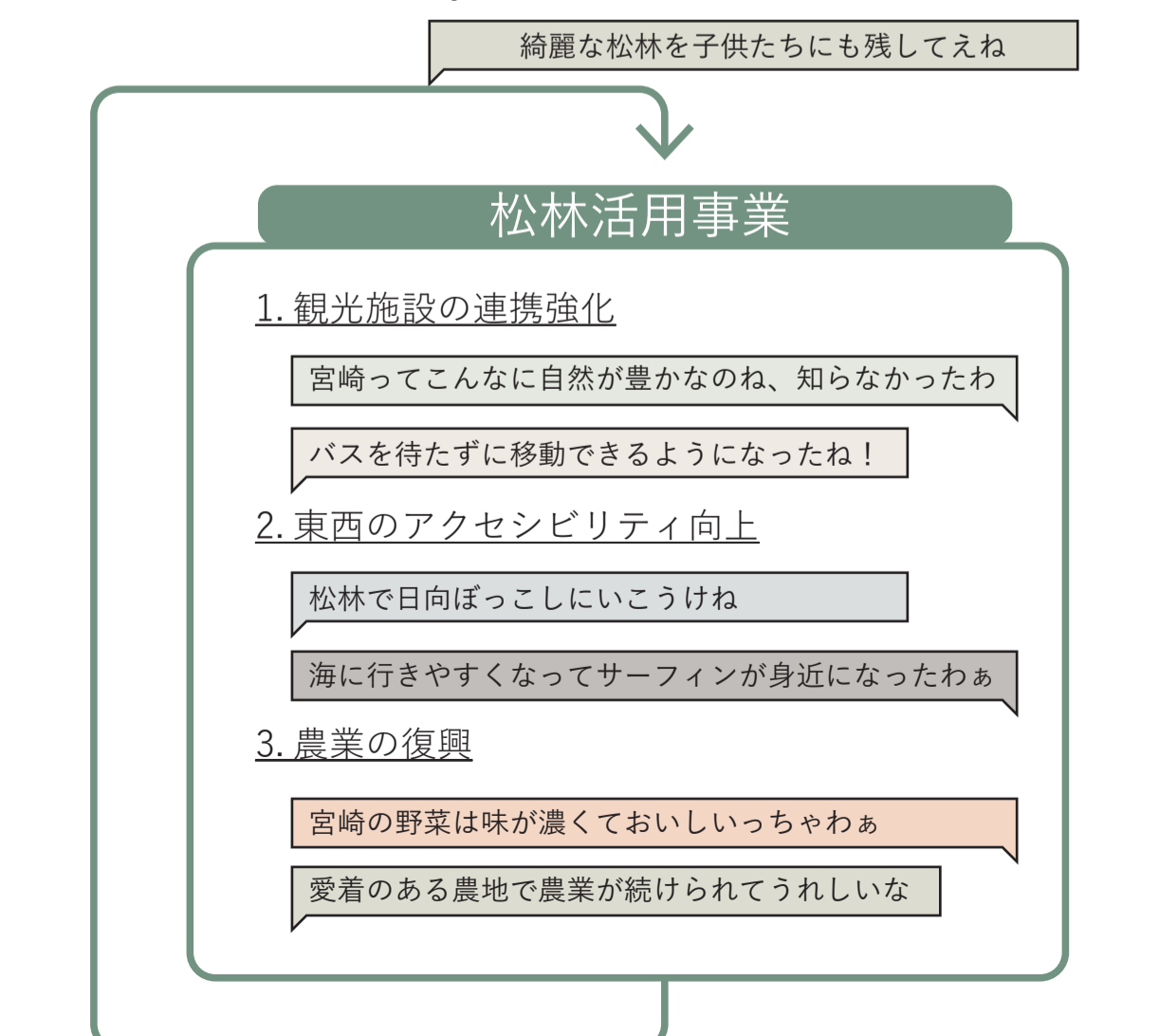
しかし、宮崎市の農家の平均年齢は63歳と高齢化が深刻であり、将来的には農業従事者の減少や、耕作放棄などによる農業産業自体の縮小化が予想される。



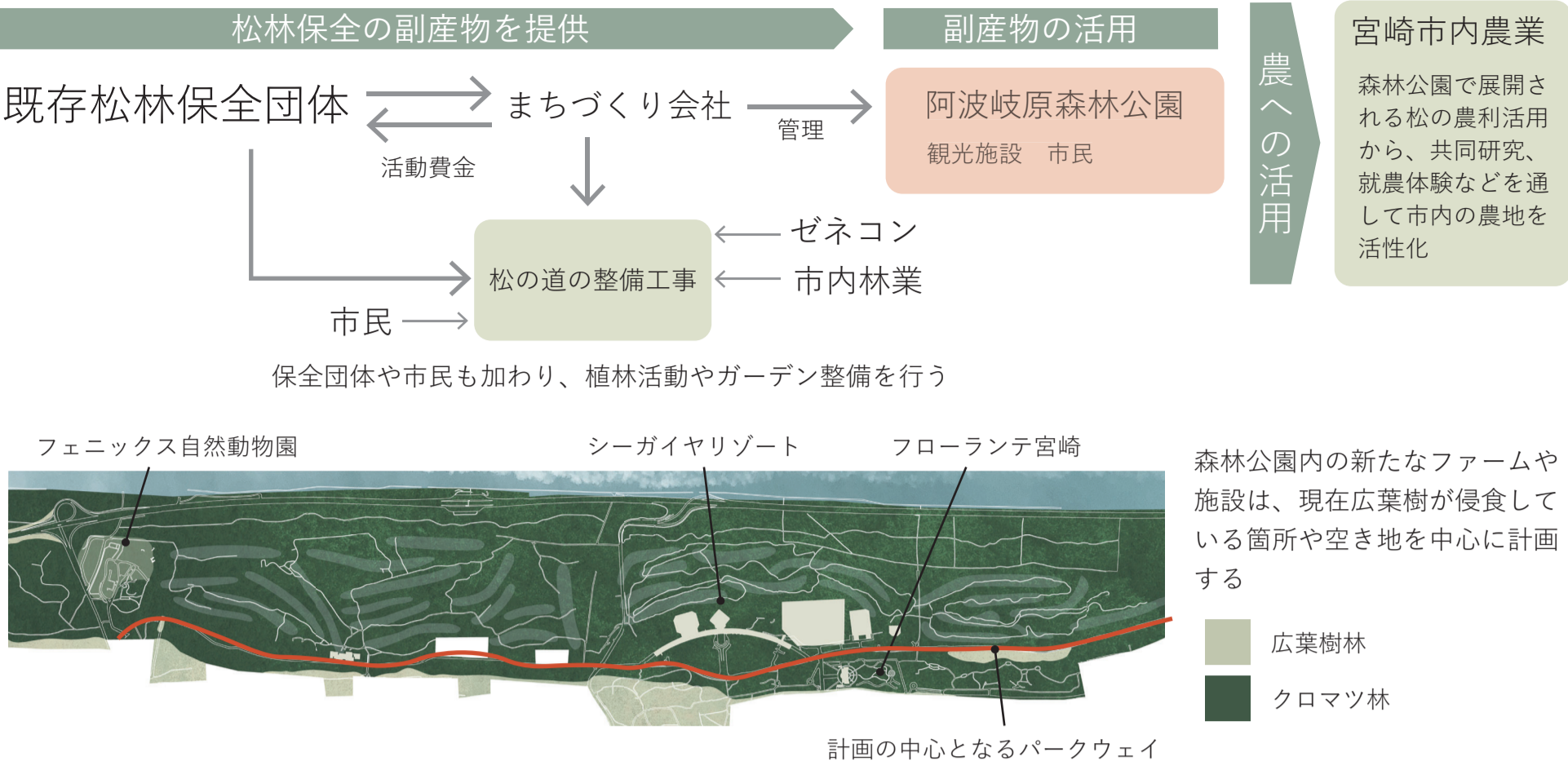
これらの理由によって、将来的に松林の防潮林としての価値が小さくなり、松林保全活動の人手や資金が不足するおそれがある。

Vision

3つの課題を松林活用事業によって解消し、宮崎市独自のwell-beingを実現し、同時に松林のレジリエンスを高める。



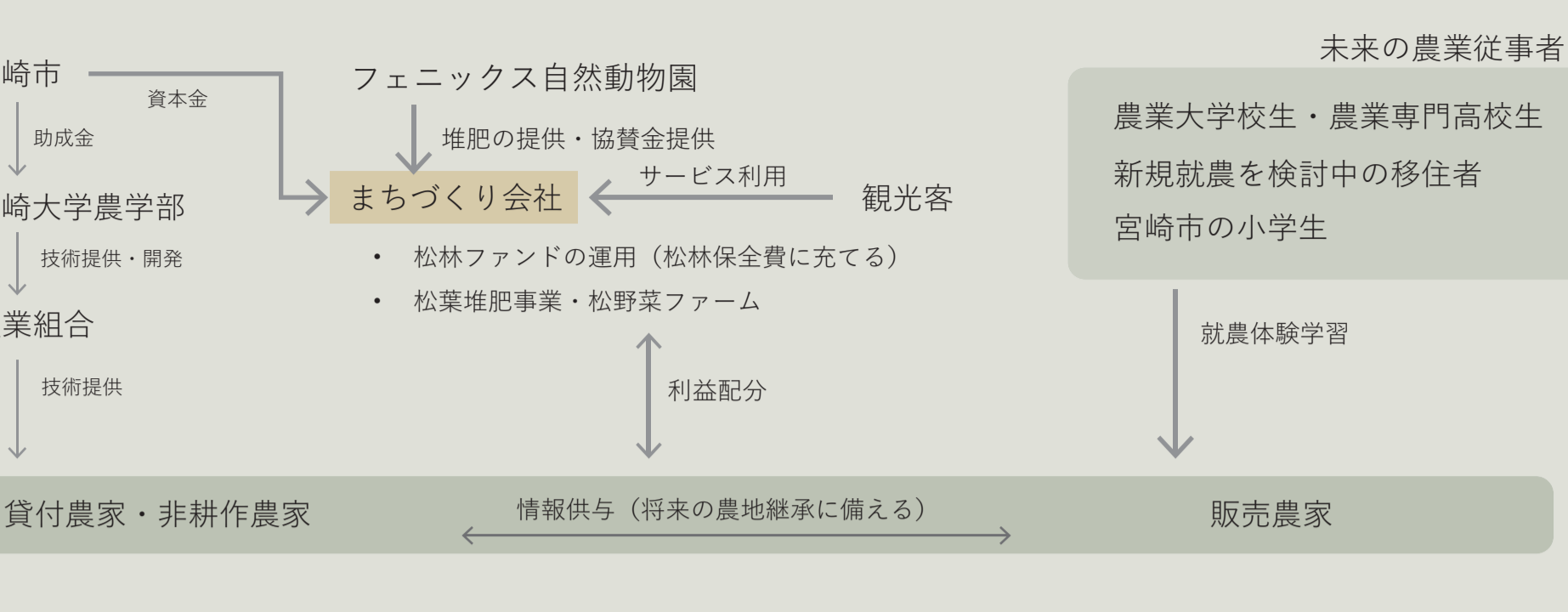
事業の流れ



松利用を通じた隣接農地活性化プログラム



森林公園内での松野菜ファームの活動を中心に、市・大学・市民・農家が関わり合い、市内の農業を活性化させていく



森林公園パークウェイ沿いの松活用マップ



松を介した観光施設群の連携

